

# 図書だより

〈第24号〉

平成3年2月25日  
 呉工業高等専門学校  
 図書委員会



留学生の日本語教育授業風景  
 (左から 長友先生、アジジィ、方、ザイナルの各君)

## 目 次

〔表紙〕	
〔読書感想文〕	
文学	「洗面器の唄」(開高 健)…………… M 1 桑原 隆………… 2
	「ビルマの豎琴」(竹山 道雄)…………… E 1 稲田 亮史………… 3
	「トム・ソーヤーの冒険」(マーク・トウェイン) C 1 塩形 将志………… 3
	「幸福人生まっしぐら」(宇野 千代)…………… A 1 三阪 美鈴………… 3
歴史	「日本歴史を散歩する」(海音寺潮五郎)…………… M 2 船倉 克也………… 4
	「蒼き狼」(井上 靖)…………… E 2 堀尾 敦史………… 5
	「マゼランが来た」(本多 勝一)…………… E 2 榎谷 明弘………… 5
政経	「欧州合衆国ができる日」(早房 長治)…………… C 3 奥本 伸一………… 6
	「石油を支配する者」(瀬木耿太郎)…………… C 3 榎藤 和典………… 8
	「1990's 世界はこう動く」(落合 信彦)…………… A 3 阿草田佳子………… 9
	「誰がケインズを殺したか」(W・カール・ビブ)… A 3 湯浅 一宏………… 10
〔随想・読書雑感〕	
	「私の数学勉強法」(吉田洋一、矢野健太郎編)…………… M 4 佐々木嘉人………… 11
	「翔ぶが如く」(司馬遼太郎)…………… E 5 吉岡 祐壮………… 12
〔留学生手記〕	
	日本での留学について…………… M 4 ザイナル アザリ………… 13
	マレーシアの正月…………… M 4 ワン アジジィ …… 14
	老人性痴呆症について…………… A 3 方 仁海………… 14
〔私の推薦する本〕	
	本多勝一著「貧困なる精神 悪口雑言罵詈謗集」一般科目教官 周藤 剛士………… 15
	中山秀太郎著「機械発達史」(大河出版)………… 機械工学科教官 大下 隆章………… 16
	三上市藏編「NEWS ユーザのためのやさしいUNIX のはじめ方」(オーム社)…………… 電気工学科教官 横瀬 義雄………… 16
〔新着図書30選〕…………… 17	
〔海外だより〕	
	イギリス公教育の現状と問題点…………… 一般科目教官 石井 淳二………… 20
〔お知らせ〕利用に関するアンケート実施、時間外閲覧利用状況…………… 22	
〔編集後記〕…………… 図書館長 林 武美………… 22	

## 読書感想文

## 文学

## 「洗面器の唄」

(開高 健著)

M1 桑原 隆

この本（洗面器の唄）を読んで一番感じたことはこの本の中の漢字が難しく、内容がなかなかつかめないうことです。一回読んだだけでは、何もわからなくて、もう一度よんだら、なんとなく分かってきたので三度読んだら、内容がやっとなつかめてきました。まず初めに一つの唄からはじまります。それから40～50年前に金子光晴が東南アジアで洗面器をみつけたところから内容に入っていきます。東南アジアの人の生活には必ず洗面器が必要だそうです。米やいろいろな煮たきにつかい、いすとしてつかい、そして商品を売買するときに鶏や魚のカレー汁をいれてつかったりしていました。そして40～50年前だから第二次世界大戦中なので、日常、よくしょういだんがおちてきて、は人々の生活をこまらせたそうです。戦争に出る人も自分のペットと、米やバナナなどを洗面器の中に入れてリュックサックに入れて出兵したそうです。それほど東南アジアの人々は洗面器に親しみをもっています。ぼくがまだ生まれてない時代なのでよくしらないので親に聞いてみると、ふろのにつかうこと以外にもいろいろつかっていたけど東南アジアのように使っていないなかつたということです。本には書かれていなかったけど現在の東南アジアでも40～50年前と同じように使っているのだろうか疑問です。でも40～50年もたてば、そんなことはないだろうと僕は思います。現在の日本は物があふれているので昔のように多様化しなくても、必要に合わせた製品があり、大変便利になりました。現代に生まれた僕はとても、恵まれて、幸せです。このような時代が永久につづけばいいなあと思います。もう一つ、戦時中には、一日一食で、食べる時も、現在のように食卓があるわけではないのでうちあいのさなかで陰にかくれて、食べたそうです。そして右から

弾がとんできたときにはこちらににげて左から弾がとんできたならあちらに逃げるといふようにいつもほそぼそとしていました。

そして一番内容で印象にのこったのは、今の日本とちがって大変ものをだいにしているということです。

40～50年前の東南アジアと現在の日本をくらべると、それはくらべものにならないほどの差があるけれど、人が物をたいせつにするという心は40～50年・何百年たっても、かわってはいけないのではないかと僕は思います。

たとえば、一家族が一つの洗面器を購入したとします。その一つの洗面器を、いろいろな用途にあわせて、工夫してつかいこわれたりすると日本のように廃棄物として処理しません。使わなくなり、おいておくと、他の人がもって行って、必要に応じてつかいます。

その人がつかわなくなると、次へ次へわたっていきます。そこで当時は廃棄物というものはありませんでした。みならわなければ。

## 「ビルマの豎琴」

(竹山 道雄著)

E1 稲田 亮史

僕がこの「ビルマの豎琴」を読んで強く感じた事は、生きていくことの重要性です。僕達と同年代の若木のように、汚れを知らぬ人達が家族と別れ、遠い異国にその骨をさらした、今現在の僕達の生活と比べてみると、信じ難い事であると同時に、考えれば考えるほど痛恨にたえないことです。自分は今まで、あまりに生きていくということについて無思慮・無反省であったと考えさせられました。豎琴を弾いて戦死者の霊を弔





う水島安彦上等兵の姿に著者の生きることの重要性についての熱い思いが込められているような気がしてならなかったのは僕の錯覚でしょうか。

戦争中は「日本国のため」という考え方が優先され過ぎました。これは大変な間違いです。国のための栄光のようなものより、人間一人一人皆が快活で謙譲で幸福であることのほうが重要で価値が有ると僕は思います。

日本が無益な戦争をして、負けて苦んだのは、日本人全てとは言えないとしても、大部分の人が無駄な欲を出したためだと思います。思い上がったために、人間としての最も大切な事を忘れてしまったからであると同時に、彼らが奉じた文明というものが、一面にははなはだ浅薄なものだったからだと思います。このような事柄は、我々にも十分言えることだから、この先しっかり考えていかなくてはいけないことだと思います。

現在、僕達若者の欲望はほとんど満たされているために、つつい人間としての最も大切な事を忘れがちです。目的も持たずバイクを乗りまわすことが、生きていくことにはたして必要なことなのでしょう。無気力ではよくないことは明らかです。しかし我々ももっと欲が少なくなるように努めなくてはならないと思います。それでなくては、人間全体がこの先救われなんでしょう。僕達若者はそのへんについてもっと考えるべきです。

## 「トム・ソーヤーの冒険」

(マーク・トウェイン原作)

### C1 塩形 将志

トムはいたずら好きで無鉄砲な程元気があって空想力があり、自分の考えを持って行動する少年です。私はこのようなトムの性格にひかれました。トムには勇気があって、とても落ちついています。トムが証言台に立ち、マフ・ポッターの無実を証言するところには、トムの並々ならぬ勇気と正義感が鮮明にあらわれています。もしだまっていれば、自分は助かるが、マフが死刑になってしまう。普通の少年なら命が助かりたいばかりにマフを見殺しにしたと思います。私は、このようなトムの勇気と正義感をすばらしいものであると

思います。

この物語には、トムの空想の翼を広げていくおもしろさや、窮屈な大人達の世界から抜けだして、「自由に楽しく」生活したいというあこがれが強く表されています。このあこがれを具体的に表現したのが「冒険」です。トム達が海賊になり、無人島で生活するということがあります。現在の私達にはとてもできることではありません。おもしろくない世の中から抜け出して、新しい自分だけの天地を作りあげようという、トムの大きな望みが強くあらわれていると同時に、トム達の行方を心配する温かい親の心というもの、うまく表現されていると思います。トムの過ごした無人島での生活は、とても楽しかっただろうと思います。それゆえに、私達、今の子供が、こういう楽しさを味わわずに、大人になっていくということが、非常に残念なことだと思われまます。

あと、トムの実行力がよく表わされている場面が宝探しです。この宝探しこそが、今の私達の望みがうまく表されていると思います。ほら穴の中で迷って、ベッキーをいたわりながら外に出るところは、トムの優しさがよくあらわれていると思います。そして、また、新しいものを見つける為に、苦労して最後まで望みを捨てない、そういうトムの性格が手にとるようにわかるような気がします。私達もこのような冒険を、一度やってみるべきではないでしょうか。そうすれば、その自由の中で、自分というものを、見直すことができ、新しい自分も発見できると思います。夢、希望、そんなものをなくさずに、大人になっていきたいと、私は思っています。

## 「幸福人生まっしぐら」

(宇野 千代著)

### A1 三阪 美鈴

このエッセイの中には、「自分で自分のことを駄目だとか言ってくさす人は、人の眼にもくさしたとおりの印象を与える」と書いてありました。わたしは、それは本当にそのとおりだと思います。それは、「自分でそういうのならば本当にそこは欠点なんだろう」と人は考えると思ったからです。

「出来ないなんて言っていないで、やっつてごらん

さい。出来ますよ。」という言葉も心に残りました。これは染織家の久保田一久さんがお弟子さんを叱咤激励した言葉だそうです。同じようなことで、「私は駄目ではない。私は何でもできると思ってみてはどうでしょう」とも書いてありました。その後「ひょっとしたら、出来ることと出来ないこととの差は、雲泥の差ではなく、出来ると思うか出来ないと思うかの差ではないか」とも書かれていました。これはとても大切なことだと思います。わたしも普段がんばればできそうな事でも、「出来っこないよ」などと言ってあきらめがちでしたがこれからはもう少し努力していこうと思います。悪いことばかりうじうじと考えるよりも行動に移してみる事が大切だと気付きました。

次にわたしがすごいなと感じたのは、著者が「辛いことでも逃げ出さない」と書いてあったところです。そこには「辛いことに直面したらそこから逃げずに自分からそっちの方へつき進んでいく」とも書いてありました。ふつうの人ならそんな風には考えられないと思います。辛かったら逃げだしてしまうと思います。それなのに自分の方から辛い方へいくなんですごいと思います。著者の宇野千代さんという人はすでに80歳を過ぎた人で、とても苦労してきた人だからそんな風に前向きに考えていけるのかもしれない。とてもすばらしい考え方だと思います。今は一人きりの生活なのに、この本の題のように「幸福人生」などと言えるのはその表れだと思いました。この本から、わたしは今までの自分がどうであったかと反省させられました。自分から自分の欠点を言って周りの人達を困らせたり、不愉快な気分させてしまったようなことがあったと思います。辛いことがあったら、あまり努力せずにすぐに逃げだしていたと思います。でもこれからはもっとどんな事にでも明るく、前向きに考えていった方がよいなと考えさせられました。きっと自分が明るくしていれば、周りの人々の気分も軽くなるだろうし、そうすれば辛い事なども解決していけると思います。小さな事にでも幸せとを感じるか、そうでないかは心のもちかた一つで変わっていくものだと気付きました。また、こつこつと努力していくことが最も大切な事であるとも書いてありました。とても人の考え方について大切なことをたくさん書いてあった本で、読んで自分に良い本だったと思います。

## 歴史

### 「日本歴史を散歩する」

(海音寺 潮五郎著)

#### M2 船倉 克也

この本の中にはいろいろな人について書いてあるが、その中から最近NHKテレビで放映している「翔ぶが如く」の西郷南州を取り上げて書いた。

まず読んでみて驚いたのは、今も鹿児島の人々に尊敬されておりがたがられているということと、この人の伝記が150種類以上も出ていると言う2点だ。世界でこんなに出版されているのはこの人ぐらいで他には例が無いということ、この人の存在のすごさがこれで解ると思う。しかしこの人の人気は死んでからだけで無く生きているときから凄かったようだ。

西郷の人を引きつける人気は、どこから出たのかわからないが彼はとても寡黙で決断力に富み、誠実な性格であった。そういうタイプは尊敬できるけど、あんまり固すぎて敬遠しがちになるのではないかと思う。そこまで人気が出たのは、この人が思いがけないところで冗談を言うところで、緊迫した人の心をほぐすタイミングが上手だったせいかもしれない。

それよりも、彼が、感情に流されず、じっくりと情勢を見つめる姿勢、誠実さそして決断力の強さが、人に好かれるようになったのではないだろうか。とかく今の人は、感情に流され、自分の意志をはっきりいえない人も多いと思われる。こういう中で彼を通して、学ぶことがたくさん自分にもあると思う。また子供のような誠実さを持っていた彼は、私利私欲のためには決して動かなかった。ここにも彼の尊敬すべき点があったと思う。立場が有利なときでも相手の気持ちを考えながら接するという行動を常に心に留めて置きたいものだ。

彼は、理想家でもあった。誠実さもあいまって、維新政府に不満が出てきてしまった。彼の性格から、西南戦争は避けて通れない運命だったと言える。

短い随筆だが、西郷南州について新しい見方ができたと思う。偉人としての彼でなく人として生きた彼を身近に思う。



## 「蒼き狼」

(井上 靖著)

### E 2 堀尾 敦史

—上天より命ありて生まれたる蒼き狼ありき。その妻なる惨白き牝鹿ありき。大いなる湖を渡りて来ぬ。モンゴル・ボルジギン氏族に古くから伝わる伝説である。

父エスガイの戦闘時にらちした母ホエルンは、それまでに幾度となくメルキト部族の者に犯されており、よって生まれて来た鉄木真テムジン（のちの成吉思汗チンギスハーン）が本当に父エスガイの子である証明はなかった。このため、鉄木真はその一生を終えるまで、自らが蒼き狼の末えいであることを証明しようとしていた。

この物語は、成吉思汗の一生を、元朝秘史等の書物を元に再現したもので、作者井上靖が学生時代から心魅かれていたテーマだという。蒼き狼とは、成吉思汗のみならず、すべてのモンゴル民族の兵たちをも指し、異民族へ侵略する時の行動は、まさに狼のそれを思わせるものだったようである。

僕自身、争いごとにはあまり好まない。というより、争いごとにまき込まれたくない、といった方がいいだろうか。ところが、人間不思議なもので、過去の想像を絶するような戦乱の物語は好きなのだ。特に中国やモンゴルのようなアジアのものが。三国志しかり、そして蒼き狼もまたしかりである。こういった物語には、現代のような、ボタン一つですべてが終わってしまうようなあっさりとした戦いではなく、肉体と肉体がぶつかり合う、その動物的な戦いの魅力と、現代にない、浪漫がある。

成吉思汗は、今も英雄として名を残す人物であるにもかかわらず、彼の生まれた場所、墓所は今だ不明であり、そういう意味では伝説的人物ではある。しかし、彼の孫フビライが日本をも手中に収めんとして戦いを挑んできた元寇はあまりにも有名である。彼もまた蒼き狼だった。

この物語の中には、いくつかの教訓ともいべき幾つかのことがらがあった気がする。同時にそれらは、モンゴル民族の生き様であったようでもある。それは与えられた使命使命の全う、抵抗しない者には指一本触れ

ない、その他もろもろであるが、そのうち最も大きいと思われるのが、武力による支配はいつか砕かれる、ということだと思う。過去には数えきれぬほど武力支配があったが、今なお残るものはない。同じように、あの時代にも必ずどこかに反乱は起こっていたし、それを鎮めても、他で起こったりしたようだ。

今も名を残す成吉思汗、幼少の頃は今日を生きるのもやっとなという風だったという。今はまだ、僕は若い。今ある能力だけでなく、無限の可能性を我々に提示してくれた物語であったように思われた。

## 「マゼランが来た」

(本多 勝一・文 谷川 明生・写真)

### E 2 榎谷 明弘

1519年、日本ではまだ戦国時代のまっさい中であつたそのころヨーロッパはスペインの艦隊が世界へ向けて旅立っていくのであつた。その提督の名は「マガリヤニス」いわゆる「マゼラン」である。歴史の年表を見ると、1519（～23）マゼラン世界一周に成功、地球が丸いことを証明する、と書かれている。そう、マゼランはヒーロー、であつた。

しかし、マゼランは世界一周していない。ではいつか、さまざまな場所で何がおこつたのであろう。その数々の出来事をマゼランの視点ではなく、その土地土地の人の視点から見たことがこの本には書いてあつた。

これは、少数民族の死滅を警告している。マゼラン一行の目的は世界一周ではなく、もうかる東洋貿易の西まわり航路さがしであつた。まず、マゼラン率いる5隻、総勢227人は、アメリカ大陸東岸から太平洋に抜ける海峡をさがし求めて、大西洋を南下していく。彼らにとっての最初の陸地はリオデジャネイロであつた。

ここで現れるのがツピナンバ族という民族である。この本では民族というものに関して深くほりさげてあつた。この民族は、お互い非常に仲がよく、争いもなく、秩序正しく、食料もわけあつていた。当時のヨーロッパのそれとはちがった習慣の彼らは、一行たちにも友好的であつた。しかし、ポルトガル人による、不正、暴力、詐欺、うらぎりなどにより深い恨みと怒りを抱

くようになる。

そして、1568年、ポルトガル人は遠征軍とともに大虐殺、皆殺しを行い、捕虜もつかまえる。これに対し、どこまでも協力的であったテミミノ族も滅ぼされてしまう。

次にマゼラン艦隊が上陸したのはラプラタ川沿岸である。ここにいたのはチャルアー人という身長の高い民族であった。一行は、彼らを巨人とよび、友好的であった彼らを、またしても裏切り、捕虜をつかまえている。

こうした後の現在は、人口はめっきり減り、母語であるチョニク語も滅びていつている。

マゼラン海峡を通過。ここには、セルクナム人がいた。マゼランたちは、この民族に会っていないが、その後ヨーロッパ人が入ってくる。ここの土地が牧羊に好適とわかったからである。ここでも、勝手放題、ヨーロッパ製の強力な武器による殺りくが行われ、伝染病のばらまき、子供の競売などありとあらゆる悪虐非道が行われていた。

それから、大平洋に入ったマゼラン艦隊は4ヵ月近く人間の住む島を見ず航海を続け、やっとグアム島にたどりつく、ここでも、村を襲い、放火、略奪が行われた。ただ、本格的に「スペイン対先住民チャモロ族」の戦争となったのは、その後、宣教師がおとずれてからであった。チャモロ族の人口は4万人から5千人に激減する。

いっぽうマゼランはフィリピンに到着、ここでも、悪態の限りを尽くす。そして、マゼラン率いる武装兵対、ラプラブ王率いる先住民の、マクタン島の戦いはじまる。結果は、世界史に周知のように、情報と作戦に勝ったラプラブ王の大勝と、マゼランの戦死であった。

さて、この本を読んで一番思ったのは、僕たちが毎

日、どっぷりとつかっている文明とはいったい何なのかということでした。

これにでてきたマゼラン一行は、兵器、武装において、また、衣食住も当時の世界のトップクラスであったらう。

それに比べ、先住民たちは、弓、刀など、おそまつなものしかなく、マゼランたちの大きな船や、大砲など見たこともなかつたらう。

しかし、残虐な争いもせず、仲良く、食べ物も分けあってきた先住民は、私利私欲のため勝手放題な文明人、ヨーロッパ人をどのような目でみたであらう。

おそらく、持っているものは進んでいても、人間としてのあり方に対する考えは、おくられていると考えたであらう。

土地、金、食料を手に入れるための、武力またはお金を使った戦いは、今も続けられている。

そして、今も少数民族は母語を失い、混血も進んで民族絶滅の危機にさらされている。今、僕たちに必要なのは、物の豊かさではなく、心の豊かさである。

## 政経

### 「欧州合衆国ができる日」

(早房 長治著)

#### C 3 奥本 伸一

EC統合とは、かつて、それぞれ、世界の頂点を極めた旧大国を、統合することによって再生させようとする、歴史的な大実験である。1989年の夏から冬にかけて、東欧各国で連鎖的に起きたのは、ソ連による支配のくびきから逃れるだけではなく、政治や経済を含めた、社会におけるすべての権利を国民の手に取り戻そうとする「大衆革命」である。

EC統合、東欧各国の動き、この2つはバラバラな出来事ではない。ECの大実験がソ連東欧の国々を刺激し、大衆革命は「東西分断の壁」を打ち砕いただけでなく、「欧州合衆国」への道を切り拓こうとしているのだ。このような影響や、目的によってEC統合へ着実に進んでいる。

いま、ヨーロッパの政治的潮流は「統一」に向かつていて、ソ連のゴルバチョフ大統領は「欧州共通の家」

#### ▶ 5年生へお願い ◀

卒業研究等で忙しい時期だと思いますが、卒業前までに、現在借用中の図書はすべて返却するようお願いします。



を東西ヨーロッパが協力してつくり上げようと繰り返し呼びかけてきた。これに対して、西ヨーロッパ側は、ドロール・ヨーロッパ共同体委員長が「欧州の村」という言葉を使ってゴルバチョフ大統領に応え1990年の年頭には、フランスのミッテラン大統領が「欧州連邦」の構想を打ち出した。さらに「冷戦の閉幕」をうたった米ソ首脳会議の後、ブッシュ米国大統領は、北大西洋条約機構首脳会議に出席のため訪れたブリュッセルで「われわれは自由で一つの欧州という歴史の曲がり角に立っている」と声明した。これらのことから、EC統一は世界の中から見ても必要である。

ECの政治統合にはさまざまな問題がある。それは一つは、ゴルバチョフ大統領による「欧州共通の家」の内容が漠然としている上に、時間の経過に従って変わっているようだ。当初は、ヨーロッパの冷戦構造の骨格だったNATOとワルシャワ条約機構の解体を強く主張していた。しかし、ドイツ統一問題によって、両機構の存続に傾いてきた。構造的デタントに合わせて、両機構の軍事色を薄めて政治化し、むしろ両機構による危機管理を意図しているようである。

2つ目は、ベーカー米国務長官による「新大西洋主義」=ワルシャワ条約機構の廃止、NATOの存続を主張しているが、「欧州の新しい安全保障機構はNATOを超えたものではなくてはならない」としている。このような機構を今からつくるのは大変である。

3つ目は、第二次大戦後、フランス外交の主たる目標は、ドイツの東西分断を永続化することによって、ドイツの力を抑えることだった。この作戦はECへの西ドイツの取り込みという形で成功してきたが、統一ドイツとなると力が強くなりすぎて、ECではコントロールしきれない。そこで枠組を広げようとしているのがフランスの狙いで、新しいドイツ操縦法を、いま模索中というのだ。今後、フランスが最も避けたいシナリオは、米国と統一ドイツが主導してNATOが欧州統合の主役の役割を果たすことで、その意味でも「欧州連邦」構想はぜひ実現させたいと考えているようだということである。

4つ目は、ドロールEC委員長による「ECを核とする同心円的な欧州統合」=統合に向かって3つのステップを考えている。まず、早急にECの政治統合を実現する。とりわけ経済通貨同盟は1992年までにも完成する。第二に、政治統合されたECに自由貿易地域

6カ国とリヒテンシュタインを加えた、3億5千万人余の単一市場をつくる。第三段階で東欧諸国を巻き込んだ4億9千万人の「欧州単一市場」を実現する。これには通貨の問題、単一市場といったいろいろな問題をかかえながら、ヨーロッパは欧州統一、「欧州連邦」を設立するために、着実に進められていて、近いうちに「欧州連邦」ができるのではないかと思う。

この欧州統一に関しての本を読んで感じたことは、今、世界はソ連と統一ドイツによっていろいろな問題があることである。それは西ドイツは、人口が少ないのに、GNPが高い、しかも、日本人のように、働かなく、休みも多いのにGNPが高いということは、西ドイツの生産能力がどのように素晴らしいのかがわかる。それにドイツ統一によって人口が増えると、もっとGNPがあがる。そのことによってヨーロッパの経済がドイツ中心に動く可能性もあると思った。フランスなどはこれを恐れて、EC統一などということを考えているのだなあと思った。

だからこのEC統一問題は、ドイツがどのように動いてくるのかによって、大きく状況が変わってくるのではないかと思います。だからドイツの政治的・経済的な動きはヨーロッパ全体を変えていくのではないかとぼくは思いました。

○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」

○「貸出期間を守ろう」



○「図書室での飲食はやめよう」

○「脱いだスリッパはゲタ箱へ」

## 「石油を支配する者」

(瀬木 耿太郎著)

### C 3 榎藤 和典

近代石油産業は、1859年8月に、エドウィン・ドレイクという人がアメリカ東部のオイル・クリークと呼ばれる地帯で、世界で初めて機械を使って石油を掘り出すことに成功したことから始まる。

そのころのアメリカのオイルビジネスの最大の特徴は私有地であれば政府機関の許可も必要とせず、自由に掘れた点で、イギリスを起源とするコモン・ロー(慣習法)の規定に基づいている。アメリカのオイルビジネスでは、今日でも資本主義経済の理想に近い自由競争の伝統が生きている。このころの石油の価格はのきなみ大変動をくりかえしている。需要の問題だけではないので、石油生産者は、パイプライン会社などに、預かってもらったり、金融関係を結んだりした。その他ロックフェラーという石油王の所有するスタンダード石油は最大の荷主の立場を利用して、たがいに激しい競争をしていた鉄道会社から、運賃割引きやりべつを受け取ったり、ドローバック(控除)をもぎとったりした。当時はそのようにして拡大していった。公示価格制度をとるようになった。公示なので会社は客観的でなければいけないのに会社が価格を下げたので、政治的にまずい立場にたたされた。それをきっかけに、石油王であったスタンダードは解体させられてしまう。

スタンダードの解体の後、第一次大戦の時アメリカが80%の石油を供給したことで、イギリスが石油なくては戦争に勝てないことを悟り、石油が出そうな地域をなるべく自己の勢力圏に入れようと画策した。メソポタミアの利権からアメリカを締め出そうとした。しかし長い交渉の上、通称「レッドライン(赤線協定)」という協定を結んだ。これでアメリカの石油会社グループは、イラク石油に参加することが認められた。しかしそれは、アメリカ石油会社の中東での行動の自由を束縛する目的をも持っていた。

1928年、当時のビッグスリーのロイヤル・ダッチ・シェル、ニュージャージー・スタンダード(エクソン)、アングロ・ペルシア(ブリティッシュ・ピトロリアムBP)の3社のうちで「現状維持協定」と呼ばれるもの

を締結し、その後数十年、国際石油カルテルの憲法の役割を果たした。それは、アメリカを除く世界の市場ごとに、それぞれの石油会社の販売シェアを現状のまま固定することを目的とした。そのことは、競争を排除し、価格を維持しようとするカルテルであった。その後、サウジアラビアにソーカルが油田を発見したり、中東を中心に新興勢力が現われ、ビッグ・スリーに、モービルソーカルテキサコおよびガルフが加わり大きなカルテルが結ばれた。そして、レッド・ラインが廃止された。その後この7社「セブン・シスターズ(七人の姉妹)」によって支配されるようになる。

第二次大戦前、国際石油カルテルは、「ガルフ・プラス方式」というシステムをとり、それは、アメリカのメキシコ湾岸(ガルフ)の石油積出港を基準地点とし、そこでの公示価格に、そこから世界各地までのタンカー運賃を加わえたものを、その地の石油価格とするものであった。中東で動いているイギリスがクレームをつけ、中東プラス方式に変わっていく。そして長い間、中東を中心として、セブンシスターズが「価格の管理者」となる。

しかしこのようになると、石油産出国が、価格を決められないので不満を持つようになり、OPECを結成することになる。油田も国有化し、また、取引価格である「公示価格」という面まで決められるだけの勢力になり、OPECがだんだん支配するようになる。

それから世界は油田開発のブームになり、イギリスの北海なども開発された。その後現在は、OPECが価格を決定しているけれど、土地問題、価格問題で争いがたえないでいる。

現代石油産業は、1859年、アメリカのエドウィン・ドレイクによって生み出され、ロックフェラーによって育てられたようだ。石油産業の歴史は、その価格の歴史でもあると思う。石油価格は、誰かが管理していないと、中東石油が自由に販売され、暴落するという性質をもっている。逆に、オイルショックでは供給不足で価格の暴騰がおこっている。そして、石油の暴落





や暴騰などをさかいに、支配者が変わっているようにも思う。よって石油産業がごく初期のころから独占体制をめざしているのは、このような価格の激しい変動を抑えこもうとしたためだと思う。

現在、中東の方に勢力があるのは、石油がこれからとても重要であることを示していると思う。初めは、石油開発、発見者が管理していたけれども、やはり石油が多く埋蔵されている国が勢力をもっているようである。イランとイラクとの戦争、イラクのクウェート侵略も、今から世界を支配していく石油のためにおこった争いだと思う。最後に世界は、20世紀の間に、ものすごい発展を見せたけれど、これもすべて石油によるものなので、20世紀は石油の時代であったと思う。

## 「1990'S 世界はこう動く」

(落合 信彦著)

### A 3 阿草 田佳子

この本は、5つの項目から成り立っている。今日の世界情勢は、いたる所で変動し、今までの常識、価値観がいつも簡単に崩され、予期せぬ事が次々と起こっている。なぜ、世界は今、一気に変わろうとしているのか、これからどう変わるのか、今度は何が起こるのか、そんな数々の疑問を知識や情報にうとい私にも、分かりやすくこの本は教えてくれた気がする。その5つの項目から、私は今一番世界が注目しているであろう、中東についての項目を特に挙げてみたいと思う。

項目「中東はいつでも世界最大の火種だ」

中東が、世界の火薬庫と言われる地域になったのは、イスラエル建国をめぐる、各国の思惑が交錯してからだという。ユダヤ人の祖国復帰運動(シオニズム)がヨーロッパを中心に盛んになり、イギリスはバルフォア宣言でユダヤ人の祖国建設を支持した。これを受けて、イギリス領パレスチナに、ユダヤ移民が大量に流入し、先住民族のパレスチナ人と衝突を繰り返すことになる。結局、国連総会でパレスチナ分割案が採択され、1948年、イスラエルは建国を宣言した。これからが、アラブーイスラエルの対決になる。これまで、4回の戦争が行われた。第3次中東戦争まで、イスラエルは勝利を得た。

しかし、第4次中東戦争においての状況は、イスラ

エルにとって不利なものだった。頼みの綱であるはずのアメリカにも、助けはもらえず、正に追いつめられたのである。そして、ついに最後の行動に出た。それは、原爆の使用であった。その行動は、米ソの干渉によって、未遂に終わったが、愕然とする様な話である。

中東を語る時に、忘れてはならないことがある。その第1が、「何が起こるか分からないのが中東である」という認識を持つことだという。アラブ人の気質を一口で表すと、したたかさ執念深さということの様である。又、アラブ民族は、あらゆるものを武器として利用する。民間人、それが女、子供であっても、武器となるならば、大いに活用するのである。

現に、イスラエルでは、政府が国家総動員令をだせば、銀行員であろうと教師であろうと、戦える者全てが武器を持って前線に向かわなければならない。イラン・イラク戦争でも同じような事があった。この戦争は当初、イラク軍が優勢であったが、3ヵ月後にイランが猛反撃を開始した。イラクの戦車部隊の前に立ちはだかったのは、なんとプラカードを持った10代の子供たちであった。それを盾にして、イランの戦車隊が従う。イラク軍は、踏み潰すことができずに撤退してしまった。押しまくられたイラクのとった行動は毒ガス・ミサイル攻撃であった。イラン兵士は、シアンガスに身をよじって死んでいった。中東では、西欧的信義や、理性など通用しはしないのである。

第2は、アラブ対イスラエルの対立関係だけではなく、アラブ対アラブの対立を考えなければ、中東は理解できないという点だ。アラブの独裁者は、誰もが似たり寄ったりである。中東に穏健派など存在するはずもなく、アラブでの覇権をめぐる、三国志さながらの謀略戦にあけくれているのである。

今後、中東はどうなるのであろう。アラブ諸国の大半は独裁国である。民主主義国ではない。これが中東で、何が起こってもおかしくないという所以である。

そして、現在各々の国が軍事力強化を最重要課題としている。シリアでは、毒ガス600トン以上を生産し、中国からM-9ミサイルを買いつけようとしている。リビアも毒ガスを持ち、イラクはアルゼンチンと中距離弾道ミサイルを製作中。サウジは、アラブ一の空軍力を持っており、イスラエルは原爆200個を有している。核と化学兵器という最悪の組み合わせが、第5次中東戦争で考えられるのである。

イラクが現在、クエートを侵略しアラブや諸外国の非難をかっている。イラクが、イライラ戦争での莫大な戦費のつけ、国内経済の不況からの国民の不満を国外にそらし、再び戦争を起こすことは本著でも予想されている。中東の民が、“最も血に飢えた男”と評しているフセイン大統領。追いつめられた彼が、どんな行動を起こすのか不安である。又、日本人をはじめ、多くの外国人が人質の様な扱いを受けており、この本を読んだ後だけに心配でたまらない。

米ソの“冷たい戦争”も終結し、世界が平和を取り戻したかの様に私には思えた。しかし、アラブでは競って大量の武器を買い、使用される可能性が高いのを知りつつ、利益のためにたくさんの武器を売り続けた国々。武器をお金に代える。それは、大切な生命を売ることになるのではないだろうか。

又、孤立したイラクを見ていると、太平洋戦争の日本のイメージが重なってしまう。あんな悲劇は、決して起こらないことを願っている。

## 「誰がケインズを殺したか」

(W・カール・ビブ著 斎藤 精一郎訳)

### A 3 湯浅 一宏

ケインズが展開した中心的命題の一つは、経済は放っておけば完全雇用に向かうとは限らず、経済を望ましい活動水準に引き上げるのに何らかの補償的な政策が必要になる場合もあるということだった。数十年にわたる議論のあと、この基本的命題をめぐる経済学者たちの意見は、いまなお一致していない。

ケインズの『一般理論』の登場以前、経済学者たちの共通の財産だった古典派経済学のリバイバル版である新古典派経済学は、経済とは自己調節力を持っており、経済を操作しようと目論む政府介入は一般に効果を持たないと主張する。さらに、マネタリストは、政府の補償的政策はしばしば有害でさえあると考えている。ケインズの抽象的理論レベルでの貢献の一つは、古典派理論の基本的命題に根本的な再検討を加えたことだった。それによってケインズの洞察には欠陥があると考える者は、いかに自由市場メカニズムが資本主義体制に自己調節力を与えるのかを、理論レベルで説明することを求められるようになった。過去20年間に

経済学者が行ってきた研究活動の大部分は彼らがマクロ経済学の「ミクロ経済学的基礎」と呼んでいるもの確立に向けられてきたのだ。すべての偉大な思想家がそうだったように、ケインズは大いなる論議を巻き起こしたのだった。

ケインズは、政府赤字に対するそれまでの考え方を根本的に変えた。例えば、景気後退期における赤字は適切だと考え、いまでは幅広く受け入れられている。憲法に均衡予算条項を組み入れよ、という提案すら、景気後退期には赤字を許容する抜け穴を用意している。景気後退期に歳入の減少を埋め合わせようと増税を行うのは愚かなことだということは、いまでは常識化している。さらに税と政府支出の変更のタイミングは経済活動に重要な影響を与えること、そして変更のタイミングが望ましいとしたら、予算決定にあたってその影響を考慮に入れるべきことも、いまや広く認識されている。

経済をコントロールするにあたって金融政策には二次的の重要性しかないという、1960年代に明白だったケインズとケイジアンの見解は、もはや受け入れられていない。過去15年間の間に、幅広い学派の経済学者たちから、経済全体をコントロールする政府の政策手段として金融政策が最も重要だと認識されるようになってきている。主としてマネタリスト学派が、この経済思想の転換をもたらした。だが、その勝利は甘ずっぱいものだった。

マネタリズムが中央銀行の政策に対する影響力を失い気味であるにもかかわらず、マネタリストに対する一般の関心は失われていない。その主たる理由は、経済政策の基本の一翼としてマネタリズムがとどまっていることにあるのは間違いない。歴史的にみれば、インフレの主因はマネーサプライの速すぎる増加にある。流通速度が不規則なときには、FRBはマネーサプライ目標に固執すべきではないだろう。しかしFRBがマネーサプライの節度ある増加をあまりに軽視するのも危険である。マネーサプライとはバランスのとれた政策体系を構成する重要な要素の一つなのだ。

大不況にあまりにとらわれたケインズは、現代の工業社会が持つダイナミックな発展の可能性に注意を向けることはなかった。

「ケインズは死んだのか」。答えはノーである。ケインズの教えの多くは、修正されてきたし、いくつかは



否定されもした。しかし、その偶像破壊的な著作を通してケインズが喚起した論争は、いまなお続いている。そして過ぎ去った時間を考えると驚くべきほどに、ケインズが存在は現代の経済学者たちのなかに、なお感じ取れるのだ。

今まで政治、経済の本を読んだことがないので、どれを読もうかなあと悩んだけど、この本が、読んでいくうちに経済学の流れを理解することができると思ってあったのでこれを買いました。しかし1回読んだけれどよくわからなかったので2回読みました。

初めて見る言葉ばかりで理解するのに苦労しました。

「殺人劇」が本書の主としての前半までのテーマで、本書の後半は、ケインズ経済学の破綻後の「経済学の彷徨」がテーマである。

と同時に本書の後半では米国経済の「双子の赤字」や経済再生について、ケインズ経済学やマネタリズムを超えた視点から分析が試みられている。今日の国際金融システムの動揺やドル問題や変動相場制が持つ本質がなんとなく分かった気がします。

一人の子供が遊覧船の上からケインズの帽子を水面に投げ入れたとき、ケインズは怒らず我慢した。ぼくはそんなケインズが好きだ。

## 随想・読書雑感

### 「私の数学勉強法」

(吉田 洋一、矢野 健太郎編)

M4 佐々木 嘉人

この本は題から想像してわかるように、数学を勉強する方法が書かれている。しかし、雑誌などに載っている具体的な勉強法は書かれていない。この本は数十人の、数学をはじめ、科学技術の分野で世界的な業績を生んだ数学の得意な人たちが著者で、その人達の自伝、数学に対する感想などで構成されている。だから著者の中には、自分の自慢話で終わるものもある。その中で特に数学の勉強法などの感想をまとめてみたいと思う。

ある著者は、「数学に王道はない。」と書いている。これには、有名なギリシアの数学者ユークリッドをめぐる逸話がある。

それは、ユークリッドが、世界文化の一大中心であったエジプトのアレクサンドリアで研究していたことがあった。

あるとき、王はユークリッドに幾何学を進講することを命じた。ところが、その講義が、あまりにも厳密で、わかりづらいものであったため、王はどうとうたまりかねて彼に「もっと手取り早く幾何学を修得することはできないのか」と尋ねた。

実は、いま述べている逸話の核心は王のこの間に対するユークリッドの答にあり、彼はこう言った。

「幾何学には、王様用の道はありません。」

当時、数学といえばそれは幾何学のことであったから、これを現代風にいえば、「数学には、王様用の道はありません。」ということになるであろう。

僕は、ユークリッドのこの言葉が事柄の真相に触れているという点で、大変に面白いと思う。

数学にせよ、何学にせよ、そのような便利な勉強法があったとしたら、それが例え始めは王様用のものであったとしても、たちまち庶民の間にも広がって、誰も彼も大学者になることができることであろう。

そうだとすると数学勉強法といっても、奇想天外な妙案など到底ありそうもない。やはり、地道にコツコツ勉強するよりほかしかたがない、ということになるだろう。

とはいうものの、苦労するばかりが能ではないと思う。ある著者は、「前者の轍を踏まず。」という諺を書いている。これは、著者が、ときおり、先生や先輩から聞いた言葉の端々を、たまたま覚えていたために、余計な苦労をしないですみ、大変にありがたく思ったこと、また、苦労して勉強しているとき、ずいぶん無駄をしていることにはたと気が付き、もっと早くわかっていたらなあ、と残念がったことなど、著者が数学を勉強し始めてから長い年月の間の経験から思ったことである。このことは、数学の勉強は前人のしたことを、

そのまま繰り返して勉強する必要はなく、創意と工夫と集中力によって、個人の能率は大変に変わるとを意味していると思う。

数学の勉強は各人にとって最小限でも必要な期間があると思う。もちろん能率の良い人もあれば悪い人もあってその期間はいちがいに決められない。

他人のことはどうでもよい。人が勉強するのでなく、自分が勉強してゆくのだから。納得がいくまで、じつくりと腰を据えて頑張る以外に道はないと思う。

## 「翔ぶが如く」

(司馬 遼太郎著)

### E 5 吉岡祐社

この小説は昨年NHKで同名で放映された大河ドラマの原本である。私は司馬遼太郎氏の歴史小説がとても好きで、これまで氏のいろいろな作品を読んだ。図書館にある、文庫本になっているものはほとんど読んだし、全集でも興味のあるものは読んだ。もう読むものがないな、と思った所でこのドラマが放映され、これを機会にこの作品も読んでみよう、というのがこの小説を読みはじめたきっかけである。

さて内容だが、明治維新、後の大警視（現在の警視総監に相当）である川路利良がフランスへ外遊する所から、大久保利通が紀尾井坂で暗殺されるまでを西郷隆盛と大久保利通を中心に書かれたものである。ここで、内容を追って感想を述べていくのは、これを読んでいる人も、私にとっても無意味であると思えるし、文庫本にして全10巻あるこの長編小説をすべて網羅するのはきりがないので、この小説の中心である、「西郷隆盛」と「大久保利通」について私が感じたことを述べたいと思う。

「創業の西郷、守城の大久保」と一般的に呼ばれ、寛容で党人的な西郷と冷酷な辣腕家であり官僚的な大久保、非常に対照的であり、かみ合う所などどこにも見当たらないような二人だが、2人とも鹿児島市内加治屋町で育った大親友であった。明治維新後2人は、政論の違いにより、お互いにとって最強の政敵となったが、2人の間には見えない強い絆があり、最高の理解者であった。その証拠に、西郷が征韓論に破れ下野した時、西郷は「一蔵どん（大久保の幼名）がおれば新

政府は心配なか。」と言っているし、西南戦争直前まで大久保は「西郷さんは決して反乱軍に加わってはおらん。」と言っていた。こんな友人関係を私は羨ましいと思う。お互い死ぬまでずっと、相手を強く信頼し、相手の能力を認め、かといって馴れ合いではなく、自分の意見を主張し、ぶつかる時には容赦なくぶつかる。こういう関係は素晴らしいことだと思う。

この文中に、おもしろい西郷評があった。西郷隆盛は大きな山の様だというものである。その山は、見る角度によってまったく違った形を人々に見せる。ある人間には神様と同じ様に敬い、崇められ、ある人にはただの愚物だとそしられる。しかし誰もその頂上を見たことはなく、本当の西郷隆盛を知っているのは誰もいない。彼のことを一番知っていたのは、前半生では先君、島津斉彬、後半生では大久保利通であったろう。

討幕という、旧権威を覆えす仕事は西郷の様に、巨大なカリスマ性を持った人間が必要であったし、新政府作りという保守的な仕事は、辣腕を持ち、粘り強く物事に当たる大久保の様な人間が必要であった。この2人がいなければ、旧式な武士国家に幕を引き、近代国家を作りあげることではできなかった。

現在日本は、経済的には超大国に成り上がったが、その反面、精神文化では世界中でも最低の位置にいると思う。政治的にもアメリカの後ろに隠れ、子供の様な外交をしている。もし今の日本に西郷や大久保といった様な幕末、維新の政治家が一人でもいれば、とこの本を読みながら強く感じた。

- 「図書室では静粛に」
- 「読んだ本はもとの位置へ」
- 「貸出期間を守ろう」



- 「図書室での飲食はやめよう」
- 「脱いだスリッパはゲタ箱へ」



# 留 学 生 手 記

## 日本での留学について

機械工学科 4年

ザイナル アザリ

早いもので、私の日本生活もう3年になろうとしています。3年間には、困ったことや楽しかったことなどが沢山ありました。マレーシアは多民族なので生活すると日本と比べてぜんぜんちがうことが感じられます。日本は日本人ばかりなので、その中にはいつまで生活して、慣れるまでなかなかたいへんだと感じています。言葉や習慣や食物などにちがいがあって、どの国でも留学すると最初には困ることが沢山あると思いました。

日本へ来る前、日本に留学するとどうなるか心配しました。マレーシアの人でだれか日本にきて帰ると日本は物価が高いといました。日本人はどんな性格かいろいろいわれて聞きました。日本という国はおばあさんとお父さんの話を聞いて戦争の時の事だけはよく知りました。4年3か月ぐらい日本がマレーシアを支配したいへんな生活になってしまったとおばあさんは語りました。その時、ごはんは食べることができなくてごはんのかわりにいもを食べました。お米はぜんぶ日本の軍隊が取ったからなかなか食べられなかった。また、いろいろ戦争の事を聞いて恐ろしくて悲しいことだと思います。今、日本は工業国として発展して、外国に沢山の企業が進出しています。現在マレーシアにも日本の会社があるので昔見たような日本人は少ずつ変わってきました。私やマレーシアの人達が日本人を昔のようにイメージするとよくないでしょうか？

そういうことにならないように最近日本の新聞やテレビで国際化という事はよく言われます。私は国際化という意味は国と国が相互の理解をする、たとえば私が日本に来ると、いろいろ日本のことを勉強します。お互いに日本人も外国のことを勉強してほしいと思います。

私は日本で生活をはじめたため、1988年4月に来ました。そのとき日本語はぜんぜんわからなかった。そ

して、1年間、東京で日本語を勉強してだんだん話すことができました。日本語学校から卒業すると日本の文部省は呉高専に受け入れました。東京にいる時に先輩がよく私の住むところにきました。先輩はいろいろ高専の生活を話して、悩みを語りました。そのときは高専にはいったらどうなるか心配に思いました。

今、高専の生活は2年間になって振り返ってみると心から楽しいと思ったことは有りませんでした。高専の勉強と生活はマレーシアで考えていたものとは違っていました。高専の生活は大学と同じだと思っていたのですが間違いでした。それでこちらの生活は退屈に思いました。寮の生活については規則があってなかなか守れないと思います。なかでも一番退屈なのは休みの日です。日本人の学生は、帰省したり、アルバイトしたり、友達と遊んだりして楽しんでいますが、外国人の私にとっては出かける以外に面白いことはありません。それで、今でも寂しさをよく感じるのです。

また、言葉の問題があり、自分の思うことを伝えられず相手の言うこともときどき分かりません。日本語に不慣れなため、学校の授業内容が聞き取れず、本を読もうにも読めないことがあります。また、独りで勉強をするとき、漢字がいっぱいあって、辞書で調べなければならないので大変です。漢字の無い国の私にとっては、漢字はいくら勉強してもなかなか覚えにくいと改めて感じています。

折角日本に来たのだから、沢山のことを理解したいと思っていますが、なかなか思うように行かなくて、残念に思っています。それで良く考えてみると、本当に頑張る以外にないのです。

——利用について（お願い）——

▶ <返却期限> を守って下さい ◀

最近、貸出図書の期限超過が目立って多くなっています。殆どの図書が1冊しか所蔵していないものばかりです。お互いが有効に利用できるよう、期限までに返却して下さい。延長希望があれば、更新（2回まで）も出来ますので手続きして下さい。

## マレーシアの正月

機械工学科 4年  
ワン アジジイ

マレーシアはいろいろな宗教からなっています。私は回教徒です。毎年回教暦からお正月を決めています。お正月一月前に回教徒たちは一月間、断食をします。断食をする時は日が出てから始まり、日が沈むと終了です。断食する時は何も食べたり飲んだりしてはいけません。

27日、役所や会社では休みに入ります。ふるさとで正月を過ごそうという人たちが、田舎へ帰りはじめるのもこのごろです。全国へ向かう汽車やバスは、この休みを利用して帰省する人たちも乗り込むため、余計に混雑します。

うちで正月を迎える人たちは正月の準備を始めます。うちじゅうきれいに掃除をします。そして、正月は店も休みですから、その間に食べる食料も買っておきます。そしてお節料理つまり正月料理を作ります。でも10日前に女性たちはクッキー、ビスケット、ケーキなどを作ります。

大晦日の晩、正月準備ができたころ、家族全員広間で話したり、遊んだりします。そして子供たちは外で花火をして遊びます。一夜明けた元旦の朝は、とてもにぎやかです。

朝、全国で回教の人たちは回教寺院へ行ってお正月のいのりをします。「今年もよい年でありますように。」と祈るのです。初もうでに来た人たちの中には和服を来た若い男女も大勢います。

うちの中では家族そろって食卓に着き、「明けましておめでとうございます。」とまず新年のあいさつをします。そして、コーヒとか紅茶を飲み、お節料理やクッキーやビスケットなどを食べて、新年を祝います。そのあと、となりの家をたずねます。

子供たちもまた同じことをします。うちに子供が来ればおとしだまをあげます。広場では子供たちがいろいろなゲームをして遊びます。うちではみんなでテレビ、ビデオを見たり、音楽を聞いたりします。

こうして、正月の3日間を過ごして、大抵4日から

また仕事が始まります。この正月の休みは一年のうちで最もマレーシア的な風景の見られる時です。

私は今、日本にたいざいしています。今年で4回もお正月を祝っていません。そのときはとても悲しいです。

## 老人性痴呆症について

建築学科 3年  
方 仁海

現在、世界では老人問題はだんだん大きくなって来て、さまざまな国の人に関心をもたれている。

日本に来て、テレビや新聞や雑誌などに老人問題がよく出て来ることに気がついた。とくに老人性痴呆症という病気がある老人達はだんだん増えて来た。また、最近それについて友達と話す時よく話題になる。

老人性痴呆症というのは簡単にいえば、老人が記憶を失うことである。一体なぜであるか、もちろんいろいろな原因があるが、ここで私は自分の考えを述べたいと思います。

人間に対しては豊富な精神生活は単純な物質生活より最も大切にしなければいけないと私は思っている。みなさんもそう思うと思います。若い時はとくに問題がないが、としをとったらいろいろな問題が出て来ると思っています。

まず、心理的な変化、中国では老小孩という言葉がある。意味は老人の心は子供の心みたいである。すなわち、なんでもやりたいし、自分がやったことは他人にほめてほしいし、いろいろ食べたくなる。

第二、老人達は仕事をやめてから、別にするのがないし、ひまになって、自分のことを思い出して、他人と話したい、とくに家族の人と話したい。だから晩飯の後に家族で話をしたり、日曜日に家族で公園にいたり、買物にいたりすると非常にたのしく、老人にとって精神的にとってもいいと思います。

第三、老人達の体はいろいろ病気でよわいし、精神もよわい。一旦、病気になって、やはり家族の人がそばにいて、いろいろやさしくやってあげてほしいと思います。



けれども、いまの日本人の生活を見ると、だいたいおじいちゃんとおばあちゃんだけ一緒に生活している。また、となりの人とはなしをしない。だから“生活は寂しい、友達がほしい”という話を私が老人達からよく聞きます。

いま、老人のため老人ホームを作っているが、老人ホームに入ったら、なんとなく不自由になると思っている。たとえば、突然何かを食べたい時できないし、何かをやりたい時もできないし、また、寝る時間やテレビを見る時間も定めてある。実は老人ホームに入っても、老人の精神生活を解決することができない。それは老人に対していい方法ではないと私は思っています。

す。

また、もう一つ忘れてはいけないことがある。老人達は若い時一生けんめい働いて、ぼくらを子供から成人まで育てるのは、一体なんのためでしょうか。いま彼らは体がよわくなって、いろいろ不便なことも出て来た。ぼくらはなにもしないで彼らを老人ホームに入らせることは、良心的にできないと思いませんか。数十年後、ぼくらも老人になる、その時、みなさんも老人ホームに入りたいですか。考えて下さい。

これは日本人と中国人の生活習慣の違いかもしれませんが、今日本の老人性痴呆症の人が増えて来た原因の一つと私は思っています。

## 私の推薦する本

本多勝一著

### 「貧困なる精神」

—悪口雑言罵詈謗集—

一般科目教官 周藤 剛士

朝日新聞社の本多勝一という記者がこの著者である。1932年生まれだから現在58才だがその筆力は若々しい。又その論理の確かさとジャーナリストとして、正しい報道、報告をしようとする姿勢の一貫性は比類がない。単なる雑文から長文の著作に至るまで、その文章にはゆるみとか論理のズレといったものが全くない。そして最も強く我々をひきつけるのは、その論が単にきちんとしてスキがないということではなく、著者の熱い想いというか、原体験というか、要するに著者の汗と血のようなものに裏打ちされたものだということを感じさせられるということである。あえて単純化して言うと、人間としての根源的な「怒り」のようなものが背後にあるように思える。

この著者の本領が最も良く現れているものの一つがこのシリーズ「貧困なる精神」である。これはすでに、すずさわ書店から20集まで出版され、ひき続き朝日新聞社から今度は、ABC集といった形で出されており、全部で25冊位になるだろう。このシリーズは著者が、月刊誌「潮」を中心に「ルポルタージュ」「朝日ジャーナル」などに発表したものを編集したものだ。サブタイトルが「悪口雑言罵詈謗集」(あくこうぞうごんば

りざんぼうしゅう)であることをみるとこのシリーズの全容がはっきり分ってくる。やはりこみ上げてくる人間味にあふれた「怒り」がこの本を支えている。

例えば「A集」には「ますます悪くなり(非国際化)してゆく日本」とか「デバガメ写真誌に復讐するため」とか「騒音に鈍感すぎないか」「編集長失格」「文句が多すぎるグアム島の旅」などという小文が載っている。こういったタイトルで小気味良く矛盾をあばき、不正を明らかにし、徹底的に批判している。妙な妥協やしりごみがなく又勇み足やもったいぶった正義感もない。どの語り口もきっぱりしていて説得力にあふれている。今日私達の批評レーダーは余りにも鈍感になっていないだろうか。鈍った批判精神をきたえ直すためにもこのシリーズは有効である。又何よりも見えない不正、矛盾を明確に我々に示してくれる。

—利用について(お願い)—

#### ▶ <転貸禁止> ◀

最近、「貸出図書」や「利用票」の転貸による事故・トラブルが発生しています。

決して他人に貸与しないで下さい。貸与により事故が生じた場合は、利用票を交付されている者の責任となります。充分に留意して下さい。

中山 秀太郎著

## 「機械発達史」

(大河出版)

機械工学科教官 大下 隆章

人類は約50万年前に火を使うようになったと言われていますが、以来、人は必要に応じて新しい機械を創り使用してきました。そして今、我々は機械文明の恩恵を享受して誠に恵まれた生活を楽しんでいます。先達のたどった技術の歴史を本書を通して次の観点から振り返ることは極めて有意義なことと思われま

1. その機械がどのような社会的背景で、どのような目的で作られたか
2. その機械が社会に与えた功罪はどのようであったか。

前者は私たちに先達の努力に対する感謝の気持ちを持たせるようになるでしょう。また、その機械への興味を与えてくれるでしょう。教育で最も大切なものの一つに動機付けが言われていますが、自分が学ぼうとする機械工学に興味を持つようになれば大きな収穫でしょう。

後者は機械技術者の社会に対する責任を教えてください。例えば、自動車の性能が向上して速度がどれほどアップしても、それと共に交通事故が増加しては人類の福祉にはつながりません。速度アップとともに安全装置を完備することが大切でしょう。

機械の歴史を学び機械技術により大きな興味を持つための手始めとして本書を推薦します。

- 「図書室では静粛に」
- 「読んだ本はもとの位置へ」
- 「貸出期間を守ろう」



- 「図書室での飲食はやめよう」
- 「脱いだスリッパはゲタ箱へ」

三上市蔵編

## 「NEWSユーザのための

やさしいUNIXのはじめかた」

(オーム社)

電気工学科教官 横瀬 義雄

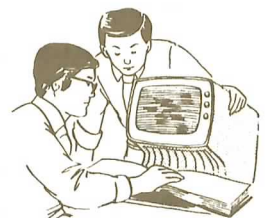
パソコン(パーソナルコンピュータ)の低価格化に伴い、今日では一般家庭でもパソコンの導入を考えている方も多いのではないのでしょうか。家庭では、家計簿、ワープロ等といった簡単な事務的処理に使われたり、あるいは仕事先でコンピュータを使う方なら家庭で仕事の続きを仕上げたり、また学生諸君は情報処理の勉強やたまには気分晴らしにゲーム等を等使い方は様々ですが、その陰には必ずOS(Operating system)というものが存在しています。

ユーザとコンピュータとの間でユーザが実行しようとする命令(コマンド)を制御し、スケジューリングや入出力制御、データの管理等の手続きをユーザに代わり行うソフトウェアをOSと言います。

パソコンを使ったことのある方ならMS-DOSという言葉聞いたことがあると思いますが、それはパソコン用に開発されたコンピュータ1台に1人の人が1つのコマンドを実行するためのシングルユーザ・シングルタスク設計であるOSの1つです。

それに対して、マルチユーザ・マルチタスク設計であるOSの1つにUNIXがあります。UNIXは対話型のOSとして開発され、現在ではオフィス用ワークステーション(OWS)あるいは技術用ワークステーション(EWS)の代表的なOSとなっています。

初めてワークステーションを使い、何かプログラムを実行してみようという方は一度この本を読んでみてはいかがでしょうか。ワークステーションのユーザとしての基礎知識、またエディタ(Vi)の使い方、FORTRANやC言語のコンパイル法、実行法、ジョブの操作法、Xウィンドウの起動法等といった基本的使用方法が簡単に記してあります。





## 新着図書30選

### 〈人文・社会〉

#### ◆NHK取材班著

##### 「社会主義の20世紀」(日本放送出版協会)

この本はNHKテレビで放映された同名の特集番組の活字版といえるだろう。一昨年从去年にかけて、東欧に民主化の大きな嵐が吹いた。それらの国々の比較的近い過去、つまり民主化の歴史的背景を知る上で貴重な指導書であり資料となるだろう。(周藤記)

#### ◆安岡章太郎著

##### 「活動小屋のある風景」(岩波書店)

活動小屋が映画館のことだと分る人は今や少数派となってしまったようだ。しかし何と郷愁をかりたてる言葉だろう。著者はこの活動小屋の中で直接体験したさまざまな感動を、単なるファンの眼でなく、批評家とジャーナリストの眼を併せ持った視点から描きだしている。映画の持つ真の魅力を教えてくれる一冊だ。(周藤記)

#### ◆山内昌之〔ほか〕著

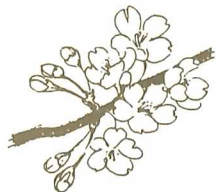
##### 「分裂するソ連」(日本放送出版協会)

現在のソ連の政治体制を根底から揺り動かしている民族問題を、歴史的背景や今日的課題の面から説明している。バルト3国や中央アジア等の民族紛争をとりあげているのは勿論であるが、さらにゴルバチョフによる主権国家連合の提案等についても言及している。(寺本記)

#### ◆講談社編

##### 「学生時代に何をつかむべきか」(講談社)

様々な心の葛藤を経験し、心の不安をかかえやすい青春期に対して、各界で活躍する70人が自らの体験をもとに若い世代を励まし勇気づけてくれる本。内容は大別して、「惑いを糧に」「今を熱く」「知と自立と創造と」「社会に向かって」の4部から構成されている。(寺本記)



### 〈自然〉

#### ◆風間洋一著

##### 「物理はいかに考えられたか」(岩波書店)

遠い銀河から素粒子にいたるまで広大な宇宙にある多様な存在とその運動の形式を統一的にとらえようとする物理学の歴史と現在続けられている努力を、著者自らが「統一」への「人類の執拗なる精神の営み」への感動をおぼえつゝ、読者に伝えようとする本。(林記)

#### ◆宇野芳〔ほか〕著

##### 「一般化学」(東京書籍)

本書は高等専門学校一般科目の化学を対象として編集されており、中学校とのつながりを重視して記述してある。その内容は15の章に分けられ、物質の構造と化学反応とを2本の柱とし、これらを探究する過程で必要になってくる化学の諸概念を系統的に展開すると共に物質の諸特性が論理的に理解できる様に構成している。(小山記)

#### ◆田中富士男編著

##### 「高専の物理問題集」(森北出版)

高専での物理学習に必要な内容を初歩から応用まで一通り揃えた問題集。問題を一つ一つ解くことによって物理の基本事項を確実に習得でき、更に、理解度を深め、応用力を養うことができる。(小山記)

#### ◆森谷清樹著

##### 「家の中のダニ」(裳華房)

最近、家の中のダニが急増して、アレルギーの原因になり、大きな問題になっている。マスコミにも取り上げられながら案外知られていないダニの生態を、科学的にやさしく解説してある。また、室内の塵がダニの発生源であることを解き明かし、ダニの防除対策の指針が示されている。(小山記)

#### ◆国分信英著

##### 「フッ素の化学」(裳華房)

焦げつかないフライパン、歯磨きなど身近なフッ素化合物は多い。一方でフロンガスによるオゾン層の破壊という社会問題を引き起こしている。有用性と毒性とを合わせもつフッ素の「素性」を化学的立場から考える。(小山記)

## 〈機 械〉

### ◆小島 忠, 宮前 博監修

#### 「ズームレンズの設計と評価」(トリケップス)

ズームレンズの発展の歴史とそれを支える設計・評価技術を中心に、各部分野での応用技術を平易に解説した本である。

特に第10章は、本校機械工学科4期生・伊藤孝之氏(旭光学工業(株)光学研究室)の執筆による。

先輩の業績を称え、この書を通して、皆さんに先輩達の活躍の一端を紹介する。(増本記)

### ◆J. ニーン著

#### 「マイコン用ロジック・アナライザ」(近代科学社)

マイクロプロセッサを利用した機器で悩む問題は、作成した機器が正しく動作しないことである。このトラブルはハードウェアとソフトウェアが関連しているため見付け出すのが困難である。ロジックアナライザはこのようなトラブルを見つける機器である。本書は、その動作原理から実際の使い方までを実例について解説している。(野原記)

### ◆大西 清著

#### 「機械設計入門」(理工学社)

初めて機械設計を学ぶ人のために、主要な機械要素にはどのようなものがあるか、またそれらを設計するにはどのような手順をふめばよいかなど、機械要素の設計をわかりやすく説明してあります。(河口記)

### ◆須藤浩三編

#### 「流体機械」(朝倉書店)

本書は水力機械と空気機械に分け、水力機械では主としてポンプ、水車、油圧機器について、空気機械では送風機、圧縮機に重点をおいて記述してある。(京免記)

—利用について(お願い)—

#### ▶ 〈返却期限〉を守って下さい◀

最近、貸出図書の期限超過が目立って多くなっています。殆どの図書が1冊しか所蔵していないものばかりです。お互いが有効に利用できるよう、期限までに返却して下さい。延長希望があれば、更新(2回まで)も出来ますので手続きして下さい。

## 〈電 気〉

### ◆谷腰欣司著

#### 「やさしく学ぶステッピングモータと使い方」(総合電子出版社)

ステッピングモータは通常のモータと異なり、パルス数により回転角を決定できる。

よって、入力パルス数を制御することにより回転数や回転角を自由に制御できることになり、ロボット関係の動力源としては不可欠のものである。

しかしこの制御はコンピュータ制御となるため、その駆動装置(ドライバー)が重要な役割をもつ。

この本では駆動回路を平易に解説してあり、またその要素技術も著者の経験から具体的に記述してあるので入門書として大いに参考になる。(若宮記)

### ◆谷腰欣司著

#### 「位置決め制御の基礎と回路技術」(総合電子出版社)

ロボットの動力源として使用されるステッピングモータやサーボモータの制御技術の基礎を解説し、位置制御に使用する光・磁気センサ及びエンコーダ等の検出部やリレーやソレノイド等の使い方について詳しく回路例を挙げて説明してあり、回路トラブルやノイズ除去法も解説してあるのでハード設計をするには是非参考にされたい。(若宮記)

### ◆吉村一伸著

#### 「趣味の電子工作入門」(オーム社)

電子オモチャを設計する場合、その基礎となる回路技術についてトランジスタやIC等について平易に解説してあり、電子オモチャを作ろうとする者は当然ながら電子回路を勉強する者には楽しめる本である。

回路例も多くあり、製作も実体図があり電気工学科の学生だけでなく誰れでも気軽に読める入門書である。(若宮記)

### ◆示村悦二郎著

#### 「自動制御とは何か」(コロナ社)

本書は、一般制御及び自動制御技術に関してその基本的概念・アイデアをお話的に(その歴史的発展といくつかのおもしろいエピソードをまじえ)解説したものである。従って講義で整理された定理・理論を習うときの応用数学を学んでいるというイメージを取り払い、具体的に応用される技術であるというイメージを獲得するのに役立つものと思う。講義で自動制御が嫌になった諸君ぜひ一読を。(加藤記)



<土 木>

◆小阪義夫監修

「最新コンクリート技術」(森北出版)

コンクリート工学における最近の動向、問題点、研究課題などを幅広く取り上げて、わかりやすく解説してある。材料・構造・施工のそれぞれについて、第一線で活躍中の専門家によって詳しく解説されている。(阿部記)

◆橋梁と基礎 21巻 8号 (昭和62年 8月)

「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」(建設図書)

広島県内の例としてとりあげている橋は場所的には海側に片よっていますが、音戸大橋、早瀬大橋、因島大橋 e t c. の現代鋼橋ばかりです。他に全国各地の古い有名橋なども多数紹介されています。予備知識なしに誰でも、どこからでも読むことができます。(丸上記)

◆吉岡幸男著

「図解土木講座 水理学の基礎」(技報堂出版)

水理学の入門書として書かれたもので、イラスト、2色刷を用い、水理学の基礎的な事項を平易に説明し、また、例題を多く取り入れてより一層理解しやすいよう配慮されている。(星記)

◆小林一輔〔ほか〕著

「アルカリ骨材反応の診断」(森北出版)

アルカリ骨材反応(AAR)の定義、AARを生ずるメカニズム、反応速度に及ぼす各種要因の影響、AARによるコンクリート構造物の劣化性状、およびAARの制御などについて詳細に解説した書である。(西谷記)

<建 築>

◆前川純一著

「建築・環境音響工学」(共立出版)

開架の専門書で痛みの激しい(よく利用されている)本の一冊に、同じ著者の「建築音響」があるが、それを下敷きにしたもので、建築音響を勉強するための格好の参考書である。著者は障壁による騒音低減を求める「前川チャート」を作った人で、このチャートは世界的に利用され、騒音防止に多大の貢献をしている。(藤井記)

◆アタマトテ・インターナショナル編

「東京都市学校 I アーバニズム宣言」(TOTO出版)

数年位前から、INAXとかミサワホームなどの住宅関連メーカーが積極的に出版業に進出し興味ある本を出している。この本は衛生陶器メーカーであるTOTOの系列会社から出版されたもので、内容は建築家・高松伸、建築史家・藤森照信など現在、活躍している8人のクリエイターを紹介している。(岡本記)

◆ヴァーノン G. ズンカー著

「サンアントニオ水都物語」(都市文化社)

洪水防止工事に伴って不要となった水路をリバーウォーク・都市公園として再生し、今では観光名所としても名高いサンアントニオ、パセオ・デル・リオの整備の歴史を綴った本。今流行のウォーターフロント開発の草分けともいえる施設を豊富な写真で紹介する。(西名記)

◆川島宙次著

「世界の民家」(相模書房)

民家とは、古代及び封建時代における被支配階級(庶民)の住宅の総称を言う。民家は庶民の様々な文化・歴史・生活の知恵が刻みこまれた建築の原点とも言える。

本書は最もプリミティブな建築或いは生活のあり方を紹介してくれる。(篠部記)

○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」

○「貸出期間を守ろう」



○「図書室での飲食はやめよう」

○「脱いだスリッパはゲタ箱へ」



## 〈共通〉

## ◆毎日新聞社編

## 「街道紀行第3巻 信越・北陸路」(毎日新聞社)

中山道は近世に栄えた街道であり、奈良井、妻籠、馬籠など今でも当時の宿場町としてのたたずまいを残しているところが多い。それらは重要伝統的建造物群保存地区に指定されるなどして見直され、若い人達にも人気がある。この本は中山道筋だけでなく、飛騨高山、合掌造りで有名な白川郷などを含めた信越・北陸路の風物を写真やイラストで紹介している。巻末には、「歴史資料博物館ガイド」としてこの地域の博物館の紹介などがあり、旅の案内になりそうです。(岡本記)

## ◆柴門ふみ著

## 「オシャベリな目玉焼き」(小学館)

同・級・生や東京ラブ・ストーリーの作者によるエッセイ集。ビッグコミック誌の連載をまとめたもので、しゃれた恋愛物語を描き出す作者が、日常生活はほとんど普通の主婦なのが楽しい。見開き半分は絵なので気楽に読める。作者のファンには意外性でお薦め。(西名記)

## ◆佐原秋生著

## 「上級グルメへの招待」(平凡社)

グルメの時代と言われて久しい。食べることは、やはり我々にとって何よりも大きな楽しみの一つである。おいしい料理をより一層楽しみながら、より一層おいしく食べたい人、或いは今は食べたくても食べれない人、必見！(篠部記)

## ◆三谷 徹著

## 「風景を読む旅」(丸善)

通勤電車の窓から見る何気ない風景も、注意深く目を凝らしてみれば、色々な生活が見えてくる。旅の列車の窓からは、より一層刺激的な風景が見えてくる。本書は、20世紀のアメリカのランドスケープを、芸術風景から技術風景まで多くの風景を写真を通して伝えてくれる。(篠部記)



## 海外だより

## イギリス公教育の

## 現状と問題点

一般科目教官 石井 淳二

## 1. はじめに

平成2年7月から11月までの4ヶ月間、文部省の在外研究員として、ウェールズ大学のカーディフ校に留学する機会を与えられた。ちょうどその時期、イギリスのマスコミは、しばしば「危機」という言葉を用いて教育問題を報道していた。そこで、今日のイギリス国民が直面している最も重大な問題の1つ、すなわち公教育の問題について簡単に紹介してみたい。ちなみに、資料は高級紙の1つであるデイリー・テレグラフ(昨年の10月8日発行のもの)による。

## 2. 幼稚園について

イギリスの幼稚園は、義務教育が始まる前の2歳か

ら5歳までの幼児を対象としている。適切な幼児教育は、その後に続く学校生活を通じて子供たちに利するところが大であるが、現状はどうであろうか。実を言うと、イギリスの公立幼稚園の数は余り多くない。保育料を支払う必要のある私立の幼稚園も少ない。従って、入園を希望する子供全部は受け入れることができず、幼稚園児の割合はわずか2人に1人以下で、ヨーロッパでも極めて低い率であると言えよう。(表1参照) このため、下院の教育特別委員会は、緊急の問題として、幼稚園の倍増を要求した。

表1

幼稚園児(3歳と4歳)の割合(%)

ベルギー	96
フランス	95
イタリア	88
スペイン	66
西ドイツ	51
オランダ	50
イギリス	44



### 3. 小学校について

小学校は、子供たちが5歳で入学し、11歳まで在学する初等教育の場である。ブラウデン報告(1967年)は、いわゆる生徒中心の授業の重要性を強調した。この教育革命により、生徒たちは各種の教材が並べられている机の間を動き回り、自分で問題を調べて、解答を発見するように奨励された。これがいわゆるアクティビティー・メソッドと呼ばれる教授法である。

しかし、その結果は、エクセター大学のベネット教授の調査が示しているように、生徒は授業時間の1/3を浪費しているのである。また、教育心理学者たちが行なった昨年の調査によれば、上記の教授法は、過去40年余りの間で生徒の読む力を大きく下げる結果となった。小学校の基礎科目である「読み、書き、算数」に習熟しないまま中等学校に進学すれば、必ず多くの生徒が失敗するのであろう。

### 4. 中等学校について

イギリスの中等教育は、11歳から18歳までの男女を対象とする。義務教育修了年齢は16歳であるが、10%の生徒はGCSE(1988年に導入された中等教育修了試験)に不合格のまま卒業する。更に25%は、低レベルの成績結果しか得られない。過去2年間における中等学校の無断欠席率は30%に達する。16歳から20歳までの100万に上る若者が、字を正しく読むことができないと認めている。

ラターなどによる研究『1万5千時間』は、良い学校は同種のエトスを共有していることを明らかにした。小学校の場合と同じように、良い中等学校の生徒は、試験で良い成績を収めている。行儀も良いし、無断欠席も少ない。16歳のあと進学する可能性も高い。他方、教師は授業の準備を怠らず、時間通りに教室へ行き、



ウインチェスター校教室風景

生徒をグループに分けるよりもむしろ1つの全体として教える。生徒に大きな期待を寄せ、定期的に宿題を与え、採点する。しかし、このような学校が、イギリスのどこにでもあるわけではない。毎年、国の視学官は、彼らが参観する何千という授業のうち1/3は質的に劣る、あるいは大変劣ると報告している。

### 5. 後続教育について

イギリス学術協会のモウザ会長は、昨年の会員への演説において、イギリスは教育と職業訓練の水準が先進国の中で最も低くなる危険性があると警告した。イギリスの16歳から18歳までの若者は250万人いるが、その1/3弱の者が全日制教育を受けているに過ぎない。従って、後続教育に関しても、先進工業国の中では特に遅れをとっている。(表2参照)

職業を得るための準備が不十分であるにもかかわらず、これほど多くの若者が教室から逃げ去っているという事実は、何か深刻な問題を語っている。生徒が教えられている教材内容、そしてそれが教えられる方法は、何かひどく具合が悪いことを示唆している。学力が最も劣る生徒は、学校で落伍する可能性が高いことをよく知っている。しかし、教師は普通そのような生徒にはほとんど期待していない。与えられるカリキュラムは、現実生活とほとんど関連がないように思われる。生徒はうんざりして、更に勉強を続けようという意欲も失い、学校を止めてしまう。

表2

全日制教育を受けている生徒(17歳)の割合(%)

日本	89
アメリカ合衆国	87
フランス	68
西ドイツ	43
イギリス	32

### 6. 教師について

教師という職業は、社会的に見て地位が低く、給料も貧弱であり、魅力がない。従って、優秀な大学卒業生(特に理数系の科目を専攻した者)を教師として募集するのが困難である。その結果、何千という生徒は、十分な資格を持っていない教師によって教えられることになる。良い教師が得られず、教師の高い転職率によって悩まされている学校は、その穴埋めとして臨時の教師に頼らざるを得ない。しかし、これは生徒の学習に極めて破壊的な影響を与えている。

### 7. 教育水準について

Oレベル（普通課程科目の試験）が廃止され、GCSEがそれにとって代わった過去3年間に、合格率は1/5以上急上昇した。これは表面的には喜ばしいことのように見える。しかし、その主な理由は、GCSEのシラバス（教授細目）の内容が大巾に減らされたからである。この減少は試験委員会によって実施され、政府は黙認した。

他方、Aレベル（18歳から受ける上級課程科目の試験）のシラバスは、GCSEの減らされた内容と調和させるように、ひそかに薄められている。このため、Aレベルの内容は、既に救い難いと言う者もいる。オックスフォードとケンブリッジの両大学は、学生の質を向上させるために、数学と工学のコースを3年から4年に延期し始めた。しかし、雇用者側は、Aレベルが10代の若者に余りにも早い時期に専門化を強いることになるかと訴えている。その結果、この訴えは、政府に対して教育水準の更なる低下を認めさせようとする圧力になっている。

### 8. 教育予算について

イギリスの視学官は、全体の学校の2/3は修理もままならず、緊急に改装する必要がある、また設備が不十

## お知らせ

#### 「アンケート実施」

先にお願ひしました「図書館利用に関するアンケート」にご協力いただきありがとうございます。寄せられたご意見・ご希望等は、今後の整備計画、運営上の参考にさせていただきます。集計結果についても、まとまりましたら適宜お知らせします。

#### 時間外閲覧（夜間開館）利用状況

（ ）内は1日平均

	開館	利用者数	貸出冊数
90年10月	21日	549人 (26.1)	244冊 (11.6)
	11月	667人 (35.1)	274冊 (14.4)
	12月	1,016人 (56.4)	188冊 (10.4)
91年1月	20日	644人 (32.2)	263冊 (13.2)

分であると報告している。しかし、イギリスのGNPに占める教育予算の割合は、他の先進国よりも低い。ちなみに、教育科学省は、学校を必要とされる水準まで高めるためには1兆ポンド以上かかるの見積もっている。

### 9. おわりに

教育は国の命運を左右するほどの大きな力を持っている。イギリス国民は、ECの統合を目前にして、かつてないほどにその重要性を認識し始めたようだ。もし現状が続けば、イギリスの次の世代は、西ヨーロッパの加盟国の中で生き残れないだろうという認識である。

イギリスが、これからどのようにして教育を充実させ、発展していくのか、期待をもって注目したい。

表3

GNPに占める教育予算の割合 (%)

オランダ	7.6
カナダ	7.4
ベルギー	6.0
日本	6.0
アメリカ合衆国	6.0
西ドイツ	5.0
イタリア	5.0
イギリス	4.9

### 編集後記

図書館長としての仕事も、この3月までと、あと残りわずかになりました。この2年間どれ程のことが出来たかどうかと思うと、成し得たことのわずかさに申し訳ない限りです。前から問題になっていた閲覧室の土足利用は、実行する方針になりましたが、実施に当たっては特に清掃上の問題があり、全校の皆さんの御協力が不可欠になっています。又、1月に行われた図書館利用アンケート調査の結果をもとにして、図書整備・視聴覚設備・複写機設置の如何等の課題についてより良き方向を追求していきたいと思いますが、検索システムの改善とともに、具体化については次の館長にお願いすることになりそうです。本号には留学生諸君が手記を書いてくれましたし、石井（淳）先生が英国の公教育についての興味ある御報告を御寄せ下さいました。これらの方々をはじめ、本号に御協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。（林記）